

27 間欠型一酸化炭素中毒の治療に対する検討

土居 浩

(都立荏原病院脳神経外科)

【目的】間欠型一酸化炭素中毒(CO中毒)は一般的には普及しているとは思われず,不幸な転帰を来すことが多い。そこで今回都立荏原病院で高気圧酸素治療(HBO)を行ったCO中毒の中で間欠型を呈した症例に対し検討した。

【対象】1996年1月より2004年7月までに当院で治療したCO中毒症例40例に対し検討を加えた。CO要因としては排気ガス自殺,練炭使用が多かったが,火災や不完全燃焼と多種にわたっていた。

【結果】40例中7例に間欠型CO中毒症例があった。間欠型の症例は全例発症後の来院であった。頭部MRI所見は全例基底核を中心にCO中毒特有の所見を呈していた。治療は全例に第1表で10回から24回のHBOを行った。それらの症例の予後は,2例のみ予後良好で,残り5例は寝たきりもしくは,全介助を要すADLであった。予後不良の5例は全例間欠型の中毒症状を起こす以前にHBOを施行されていない症例で,中には酸素治療も行われていなかった例もあり,発症時は軽い頭痛のみの症例。したがってCO-Hbの濃度も測定していない症例であった。予後良好の1例は中国旅行中練炭使用によるCO中毒で,発症時意識障害あり,上海で3回のHBOを受け帰国。帰国後2週間後より痴呆様症状が出現,当院でさらにHBOを受けた症例で,MRI上も淡蒼球に変化を認めたが,記銘力障害もごく軽度で独歩退院。もう1例も練炭によるCO中毒で,他院に搬送,純酸素治療施行。その後10日目に症状は全くなかったが,MRIで淡蒼球に変化を認めたため,発症2週間で当院搬送。すぐにHBOを施行。しかし来院後5日目より急に痴呆症状出現。長谷川式10点に低下。その後も都合24回の第1表によるHBOを行い,長谷川式23点に回復,独歩退院した。

【考察】CO中毒の重症度に限らず,HBOを考慮し,その後も臨床症状,MRIによるモニタリングが間欠型の予防に寄与すると考えられた。

28 急性CO中毒による低酸素性脳症に対するHBOの限界

井上 治¹⁾ 伊佐勝憲²⁾ 森園修一郎³⁾堂籠 博⁴⁾

1)	琉球大学医学部附属病院	高気圧治療部
2)	同	第3内科
3)	同	精神科
4)	同	救急部

【目的】急性CO中毒に対するHBOは血中からCO-Hgを短時間に駆逐する蘇生法であるが,搬送や初期治療に時間を要し,血中CO-Hgが既に低値であることも多い。意識が回復しても数週後に神経精神系の脱落症状が現れる間歇型CO中毒が問題であり,HBOがこの発現を抑え,後遺障害を少なくし得るか結論はできていない。

【症例】過去15年間の11例(男9,女2,20~49歳)で,車の排気ガスによる自殺企図6例,密室内の発電機使用3例,火災1例,空炊き1例であった。7例が昏睡で発見され,4例はもうろう状態で,全例,酸素吸入下に一次救急施設まで搬送された(30~70分,平均40分)。間歇型CO中毒を発現し後遺症を残した4例(間歇型)と発現しなかった7例(非間歇型)に分けると,CO-Hb値は間歇型4例では14.9~35%(平均23.5%),非間歇型では1例(火災例)が34%以外は2.2~20%(平均11.6%)であった。

【治療経過】救急的HBO(2.8ATA=60~105min./day)の開始は3~7時間(平均4.3時間)後であったが,間歇型では3~5時間(平均3.7時間)であった。覚醒は間歇型4例で翌日~8日以上遅れたが,非間歇型の1例(火災例)は8日後に開眼し最も覚醒が遅れた。間歇型の発現を抑える目的で入院安静とし,HBO(2.8A.T.A.=60min./day)を継続した。間歇型4例は一旦,歩行できるまで回復したが,2~4週間後から精神障害やパーキンソン症が発現した。間歇型の3例は入院期間中に改善が得られ,軽度~中等度の後遺症を残したが,1例は全失語,全介助の高度後遺症を残した。非間歇型では2例は覚醒が遅れ,歩行も遅れたが,軽度の精神障害のみを残し,5例は翌日には覚醒し,後遺症も残さなかった。MRI所見では間歇型の4人では初期より淡蒼球に高信号領域が見られ,発現後はびまん性大脳白質病変が出現したが,数ヶ月で画像上の改善を認めた。

【結論】HBOの継続は間歇型CO中毒の発現を抑えられない症例もあったが,長期には神経/精神症状の改善に寄与した可能性も否定できない。